

姫路城下にくだす

うたいはやし
謡雑子



伊和大明神臨時祭之画図 姫路市立城郭研究室蔵 姫路市指定重要有形文化財

発行日／平成31年3月15日
発行者／播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会
編集協力／城巽連合自治会 事務局 山田美奈子
撮影協力／神社新報社 関西支局 伊垣友絵
撮影協力／NPO法人 CLUB HOUSE 理事長 崎谷健
印刷所／アシヤ印刷株式会社

播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会

 平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金

「謡囃子」復興に寄せて

播磨学研究所副所長 小栗栖 健治

播磨国総社に受け継がれてきた一ツ山大祭・三ツ山大祭は、播磨を代表する祭礼の一つである。江戸時代、一ツ山大祭は「丁卯大祭礼」、三ツ山大祭は「臨時大祭礼」と称されていた。この二つの祭礼は「天神地祇祭」の系譜を伝える祭礼とされるが、「天神地祇祭」そのものがいかなる神事祭礼であったのかは明らかにならない。

「丁卯大祭礼」や「臨時大祭礼」に現在見ることができる「やま」が登場するのは、16世紀中期、戦国時代のことであり、一ツ山大祭・三ツ山大祭の祖型はこの時期にまで遡る。「天神地祇祭」・「臨時祭」に「やま」が登場し、その築造は山陽道（西国街道）に沿って成立した国府寺村・宿村・福中村が担い、「童謡・花かざり」など芸能をとまなう行列が祭礼に彩りを添えていた。この時期、「天神地祇祭」は地域住民を取り込む祭礼へとそのあり方を大きく変えたようである。

池田輝政により新たに姫路城が築城されると、播磨国総社は姫路城の鎮守として位置づけられ、「丁卯大祭礼」と「臨時大祭礼」は城下町姫路の祭礼、いわゆる都市祭礼として発展を遂げる。「丁卯大祭礼」と「臨時大祭礼」の特色として、「やま」、「五種神事」、「やま」の舞台での「猿楽」、城下の町々の屋根の上を飾る「造り物」、「謡囃子」、「俄」などをあげることができる。これらの中で、「やま」と「五種神事」は連綿として現代社会に受け継がれている。「造り物」は社会構造や建築技法の変化により形骸化が進んだが、平成25年の三ツ山大祭の折には地域の方々の協力を得て、一つの形を示すことができた。

平成27年に設立された「播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会」では、大祭の保存継承と発展について尽力され、平成30年度は「謡囃子」の復興に取り組まれた。

「謡囃子」は前述したように16世紀に一ツ山大祭・三ツ山大祭が成立するその時期にその端緒を見ることができ、その具体相は「伊和大明神臨時祭之画図」（承応2年：1653 姫路市立城郭研究室蔵 姫路市指定重要有形文化財）によって知ることができる。画図によれば、「謡拍子」（謡囃子）は三組描かれ、それぞれが「東之山（二色山）」「南之山（五色山）」「西之山（小袖山）」に属している。二色山を例にとれば、白鉢巻に具足を纏って太刀を佩き、長刀を持つ警固、揃いの着物を着して笠を被り左手に花の枝を持って踊る少女、太鼓・鼓、笛で囃子を演じる人たち、その後方に花を飾る「笠鉾（鉾笠）」が続いている。いかにも楽しそうな情景で、手踊りをしている人物までが描き込まれている。

江戸時代、二色山は国府寺村、五色山は宿村、小袖山は福中村によって管理されていた。謡囃子はその元で、二色山は大野町・野里寺町・鍛冶町、五色山は西紺屋町、小袖山は南畝村が担当した。嘉永7年（1854）の記録によると、謡囃子の行列は次のようになっていた（数字は人数）。

二色山	御幣持1、櫛持2、笠鉾持5、作り物田原藤太 龍神鐘引子供80（鯛・鮒・鯖・蛸冠ヲ着）、笛4、鼓7、太鼓5、地謡10、役人32、警固15、袴着35、力者車引人足12、車引子供人足30、囃子方附人足12	人数250人
五色山	御幣持3、笠鉾持3、車引子供30、作り物石橋人形、笛3、鼓6、太鼓3、地謡17、警固55、人足45	人数165人
小袖山	露払2、兜具足着5、警固5、花車引子供28（花笠冠）、大御幣持2、開口謡16、大小指2、烏帽子狩衣着1、笛吹4、鼓3、太鼓3、地謡12、花車引警固28、惣警固60、御笠鉾持5、太鼓持4、諸役人足35	人数215人



姫路城内総社臨時大祭礼略図(嘉永7年 1854) 前川憲司氏蔵

謡囃子の構成は三つの山で異なりを見せるが、それぞれの「やま」に笠鉾や「作り物」（田原藤太の龍神鐘引など）の曳物が登場する点は共通している。それぞれに165人から250人が参加する大規模な謡囃子は、三ツ山大祭を彩る華やかな祭礼行列であったことを予想させる。

謡囃子は、三ツ山大祭の最終日に行われる「神式」に登場した。「神式」は、現在の「中の日大祭」に相当する。行列は、二色山は内京口御門、五色山は鳥居先御門、小袖山は総社御門から入り、神歌を歌い神門前の広前を通りそれぞれの山を目指した。

華やかな謡囃子に人気の集まったことは間違いなく、そのことは江戸時代の屏風や絵図、刷り物に描かれていることから容易に知ることができる。こうした謡囃子も明治に入ると一ツ山大祭・三ツ山大祭のあり方が見直され、「やま」ごとに行われた謡囃子を確認することはできない。

この度の謡囃子の復興にあたっては、「伊和大明神臨時祭之画図」（姫路市立城郭研究室蔵）、「氏神惣社臨時大祭礼見聞録」（姫路市立琴丘高等学校蔵）、「播磨国総社図会」（西尾市岩瀬文庫蔵）、「播州姫路惣社臨時大祭礼曳物略図」（前川憲司氏蔵）、「姫路城内総社臨時大祭礼略図」（前川憲司氏蔵）等を元に検討が加えられている。江戸時代と現代とでは社会構造は大きく異なり、祭礼の受け止め方も多様である。しかし、祭り・祭礼が多くの人たちの心を一つに結びつけ、地域連携の役割を担うのは自明のことである。

計画された謡囃子は、平成31年1月14日に実施された。播磨国総社の「初ゑびす祭」の宝恵籠行列とともに氏子域内を巡行した。笠鉾と三ツ山模型の曳物、老若男女からなる踊り、百人ほどの行列は街路で多くの人たちの注目を集めていた。謡囃子の取り組みは、十分とは言えないが成功を収めたようである。今後は内容を歴史的・現代的により充実させ、地域の振興に大いに貢献されることが期待されるのである。



ごあいさつ

播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会
会長 田中 種男

平成25年（2013年）播磨国総社三ツ山大祭斎行から早くも5年が経過いたしました。この「置ヤマ」の風流（ふうりゅう）は兵庫県指定重要無形民俗文化財として、氏子・崇敬者一同により、毎回情熱を持って新しい趣向を凝らした展示や造り物等で地域住民の関心を深めるよう努力してきました。

また今回の大祭は、特に地域から全国、観光客も外国人へと広がりを見せてきましたことは大きな力となりました。ただ20年・60年に一度の大祭なので、その期間をうめて、この文化財にずーっと親しみのあるものにしたいという思いが強くなり、平成27年（2015年）に播磨国総社一ツ山大祭三ツ山大祭保存会を立ち上げ、今に至っております。

陰干し（小袖）は毎年実施しております。氏子住民の方々から貴重な思い出深い小袖を寄贈していただいているので、これを陰干しをいたし虫よけをしております。拝殿前の広場での晴着は花満開のように美しく人々の心に感動を与えてくれます。また啓蒙啓発のために講演会や三ツ山造り（江戸時代の絵画を見本として）大祭関係の写真展、造りもの展示等を実施しています。

今回は、伊和大明神臨時大祭之画図などの古図をもとにして、連を構成しようと考えました。謡囃子の再現です。地域・姫路市の活性化と共に伝統ある大祭を観光客、外国人地域の人々に十二分に楽しんでもらったとの願いをもって企画し、平成31年1月14日の総社初ゑびす祭に三ツ山大祭の連を再現いたしました。

先づ古式阿波踊りに似た播州踊りを古老より教わり、猛練習を重ね披露することができました。またお城踊り、総社修羅踊三ツ山大祭協賛三ツ山音頭など江戸時代の絵画にもとづいて練習を重ねて発表いたしました。隊列として三ツ山台車を中心に御幣・竹杖・傘鉾・鼓・太鼓・三味線・笛・鉦、とにぎやかに踊りあわせて練り歩きました。

総勢600人の行列は延々と続き、見物客の拍手と声援に送られ巡行いたしました。多くの人々から喜びと感謝のことばを頂きとってもうれしくお礼申し上げました。うれしさ一杯でした。

途中、姫路駅前キャッスルガーデンで祭は最高潮になりました。舞台では踊りあり、歌あり、太鼓と演技はもり上りにもり上りました。見物人は何百人となり大成功でした。

まだまだ当日の様子を表現するには不十分ですが、私としてはこのように三ツ山大祭への関心の大きさをただただ感謝するばかり。これからも三ツ山大祭に関する活動を重ねて、次の三ツ山大祭、一ツ山大祭につなげていきたいと思ひます。

最後に準備から当日までご苦勞をして下さった氏子、出演者、関係各位に心からお礼申し上げます。

謡囃子について

播磨国総社では20年に一度、三ツ山大祭が行なわれます。

神門の前に二色山・五色山・小袖山と呼ばれる、高さ18メートル、底辺の直径が10メートルの山が造られます。この山は中世より城下町にあった、国府寺村・宿村・福中村の三村が担当していました。謡囃子はこの山に附属する芸能で、花傘を持ち、造り物を載せた台車などを曳き、鎧武者や華麗な衣装を着て花枝をもった人たちが、鉦と太鼓の囃子、笛と鼓と三味線などの音色に合わせて三ツ山まで練りこみました。

今回は、播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会により、一ツ山大祭・三ツ山大祭を未来に向かって引き継ぐ為に謡囃子を再興しました。

◆描かれた謡囃子



伊和大明神臨時祭之画図(承応2年 1653) 姫路市立城郭研究室蔵 姫路市指定重要有形文化財



臨時大祭礼絵図(安永2年 1773)
仙石収氏蔵



播磨国総社三ツ山祭礼図屏風 2曲1隻 (17世紀後半)
兵庫県立歴史博物館蔵 兵庫県指定重要有形文化財



播磨姫路総社臨時大祭礼曳物略図(嘉永7年 1854)
前川憲司氏蔵



播磨国総社図会(天保4年 1833)
西尾市岩瀬文庫蔵

謡囃子の隊列表

列 順	役 務	団体等内訳	人 数
謡 囃 子	警 固	白丁(19名) 松井仁司 大畠正純 上田茂美 西田志津代 栗原亜紀代 三森初女 中村幸男 高橋キミノ 中田秀子 田中緑 寺本月子 荻多道代	78
	高 張 提 灯	吉永玲子 中塚繁明 中塚八重子 天野久子 信原照美 岩谷和美 衣笠郁代(着付)	
	御 幣	三ツ山踊り保存会(27名)	
	大 傘	新井美和子 福岡豊美 今村満洲子 多田直子 藤田恵美子	
	謡 囃 子	成井幸 有方泰代 位田和子 山本勢子 岡村小夜子 長尾まちこ 菅道子 沢野京子 柏尾陽子 高田桂子 土居南者子 梶美紀	
	謡 囃 子	水守ゆかり 谷淵よしみ 吉田彩花 市川澪 梶そあら 梶あいな 梶ほしと 水守かな 谷淵ほのか 下浦里江子(着付)	
	三ツ山の造り物	姫路・城東連(27名)	
	謡 囃 子	藤井春義 小川哲郎 松芳春夫 松芳常美 山本洋子 矢野博愛	
子	謡 囃 子	織田正規 織田るみ 蔭山正則 宮本桂子 後藤佳子 小坂博子	524 602
	謡 囃 子	児島隆子 森谷千恵香 黒崎安子 吉田武司 堀井政子 金田英美恵	
	警 固	浅田久代 戸川良雄 鳴瀬和代 藤原昭義 吉田弘 黒田ひろみ	
宝 恵 駕 籠 行 列	オプザバー撮影編集	松尾智里 松尾惟知花 松尾弥樹	
	小栗栖健治 宇那木隆司 伊垣友絵 崎谷健 山田美奈子	敬称略	

謡囃子の諸役

御 幣

三ツ山の
造り物

大 傘

謡囃子

謡囃子

三ツ山踊り保存会

姫路・城東連

高張提灯

警 固





特別舞台



道中
(御幸通り)



特別舞台



道中
(御幸通り)



道中
(本町通り)



道中
(坂田町南)



道中
(二階町商店街)



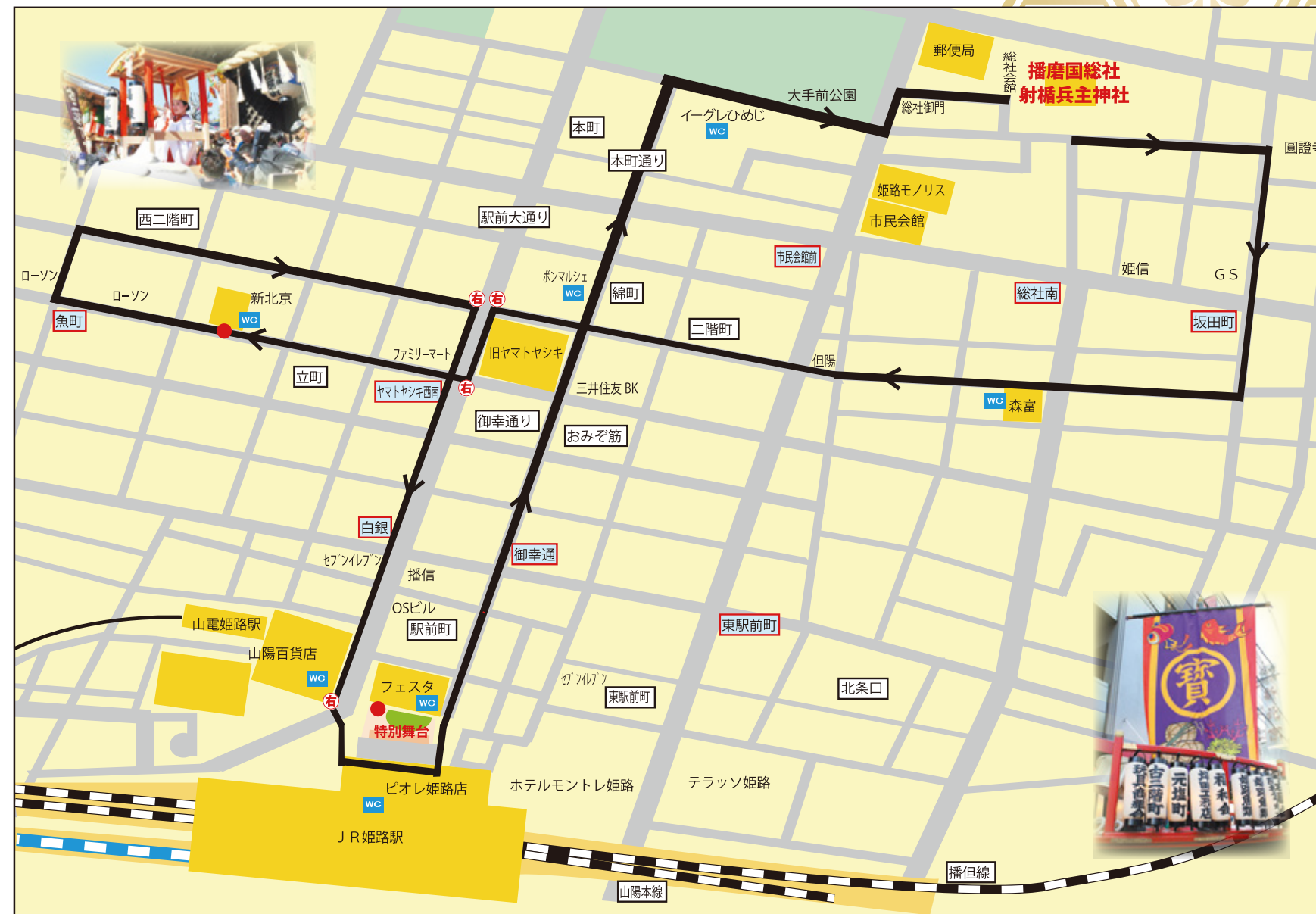
道中
(西二階町商店街)



道中
(西二階町商店街)



道中
(魚町)



道中
(大手前通り)



道中
(大手前通り)



道中
(立町)

平成31年 1月14日 謡囃子 の進路図 宝恵駕 籠行列と共に...



伊和大明神臨時祭之画図 姫路市立城郭研究室蔵 姫路市指定重要有形文化財

平成25年4月1日～7日	第22回播磨国総社三ツ山大祭を斎行
平成27年3月30日	播磨国総社三ツ山大祭調査報告書発刊
平成27年7月13日	播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会を発足
平成27年11月7日	播磨国総社 三ツ山大祭能楽セミナー&シンポジウム開催
平成27年7月31日	飾り人形虫干し
平成28年7月～11月	連続講座 城下町姫路の祭礼(全10回)実施
平成28年10月14日	小袖の陰干し
平成29年3月31日	保存会会報誌「神のやま」創刊号発刊
平成29年9月～11月	造り物学習会（三ツ山を造ろう）実施
平成29年10月21日	昭和28年三ツ山大祭古写真展
平成29年12月4日	小袖の陰干し
平成30年4月30日	保存会会報誌「神のやま」第2号発刊
平成30年10月22日	小袖の陰干し
平成30年11月13日～30日	昭和3年一ツ山大祭古写真展
平成31年1月14日	謡囃子を再興 播磨国総社宝恵駕籠行列に参加
平成31年3月15日	謡囃子再興記念誌「姫路城下にくりだす謡囃子」発刊

謡囃子実行委員会 会議記録

- ◆実行委員
田中種男会長、小川哲郎副会長
小栗柄健治オブザーバー
宇那木隆司オブザーバー
花幡和宏委員、新井美和子会員
真田慶樹事務局、稲岡佳浩事務局

- ◆会議場所
播磨国総社 会議室

- ◆会議記録
7月23日 15:00
8月 1日 15:00
8月16日 10:00
9月 2日 14:00
9月17日 16:00
10月1日 15:00
11月1日 14:00
2月21日 18:00
2月27日 17:00



謡囃子練習記録

- ◆三ツ山踊り保存会
11月27日
12月 7日
12月18日
12月21日
12月25日
1月 8日



- ◆姫路・城東連
10月25日
11月11日
11月22日
12月 9日
12月13日
1月10日

